

宿直業務導入における救急外来処方の調査

角尾 雄輝, 町田 忠相, 佐藤 康弘, 鳴原 弘一

山端 孝司, 早崎 伸一, 藤沢 守

Key Words : 入院時医学管理加算, 宿直業務, 服薬アドヒアランス, 委託薬剤師

【目的】

2008年度診療報酬改定により入院時医学管理加算が60点から120点に改定された。当院ではこの加算を算定するため、条件の一つであった薬剤師の宿直業務を2008年7月より開始した。薬剤師が宿直業務を開始したことにより、夜間救急外来患者への処方内容に変化が見られるかを調査したので報告する。

【方法】

呼び出し対応であった宿直業務開始以前の2007年7月から2008年6月までの1年間と、宿直業務が開始された2008年7月から2009年6月までの期間で以下について調査した。

来院患者数と年齢

処方箋枚数と年齢

年齢分布

処方薬剤数

処方薬剤

【結果】

2007年7月～2008年6月(以下「宿直前」とする。)において、来院成人患者数4443名、小児患者数3049名。また2008年7月から2009年6月(以下「宿直後」とする。)において、成人4177名、小児3279名(図1)、処方箋枚数は宿直前において成人1048枚、小児725枚であった。宿直後、成人1562枚、小児2046枚(図2)。一処方あたりの平均薬剤数は宿直前、成人1.8種、小児1.6種、で

あった。宿直後平均薬剤数は成人2.1種、小児3.0種であった(図4)。

宿直前は、救急外来に常備していた87種(内用55種、外用32種)の薬剤から処方されていたが、宿直業務開始後は処方された薬剤は265種(内用178種、外用85種、注射2種)となった(図5)。

【考察】

小児への処方枚数は約2.8倍に増え、一処方あたりの薬剤数も約1.9倍増えた。これは小児への処方、水剤、散剤の選択、投与量の調整が必要であり、薬剤師により調剤が行われている事に関連していると考えられた。さらに夜間でも薬剤師が服薬指導することにより、服薬アドヒアランスの向上、患者の薬に対する安心感へとつながっていると考えられる。また今回は検討していないが、入院患者に対して緊急の調剤、注射払い出し等も迅速に対応可能となり、医療の質の向上に貢献していると考えられる。

【おわりに】

当院の薬剤師は現在7名である。これは同規模の病院としてはかなり少ない。しかし、より良い医療を提供するため、確実に薬剤業務は増えてきている。そのため2名の委託薬剤師に、月それぞれ2回ずつ宿直業務を行ってもらっているが、まだまだ不十分であり、病棟業務などを行えず支障をきたしている。業務の見直しや効率化が今後の課題である。

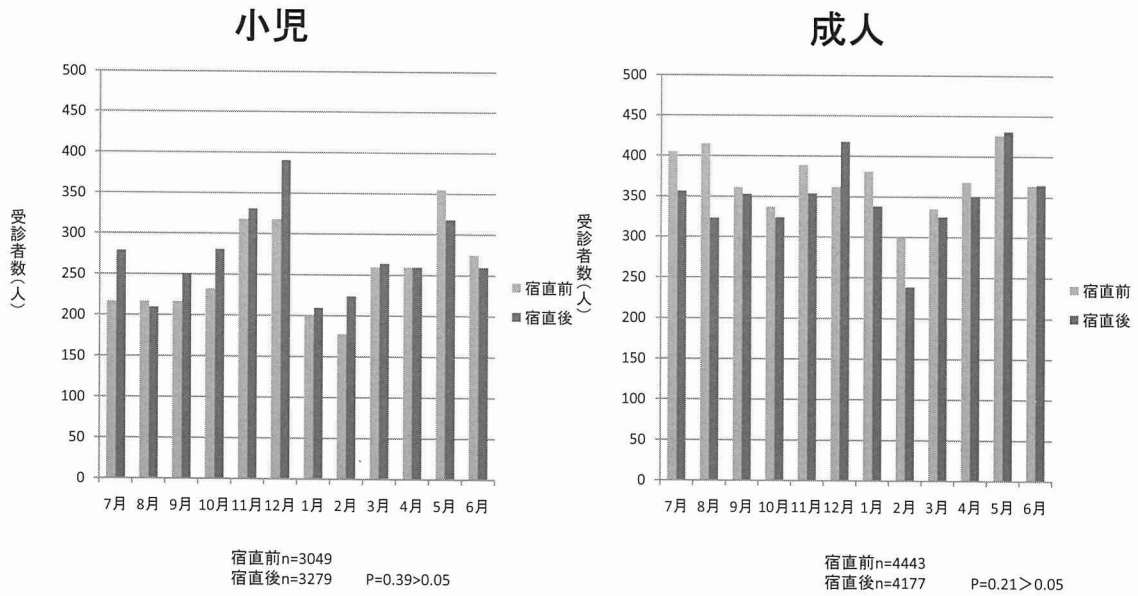


図1 夜間救急外来患者数

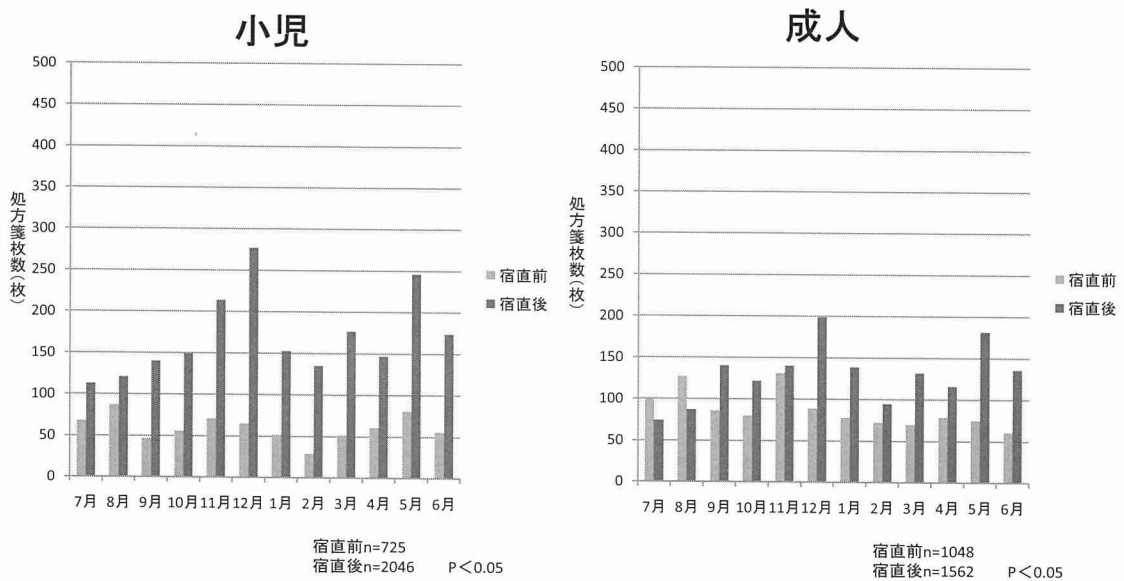


図2 夜間救急外来処方箋発行枚数

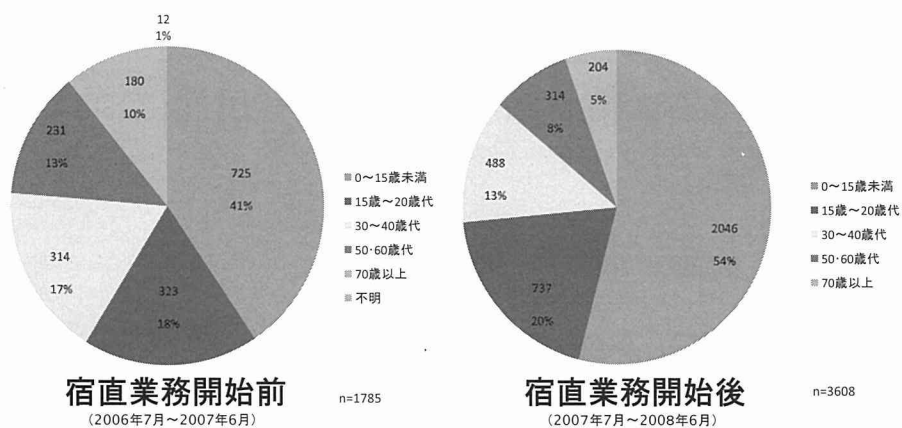


図3 処方箋発行対象年齢の変化

小児(15歳未満)

| | 宿直業務開始前 | 宿直業務開始後 | |
|---------|---------|---------|--------|
| 平均処方薬剤数 | 1.6 | 3.0 | P<0.05 |
| 内用数 | 0.7 | 2.2 | P<0.05 |
| 外用数 | 0.9 | 0.8 | P=0.22 |

成人(15歳以上)

| | 宿直業務開始前 | 宿直業務開始後 | |
|---------|---------|---------|--------|
| 平均処方薬剤数 | 1.8 | 2.1 | P<0.05 |
| 内用数 | 1.4 | 1.8 | P<0.05 |
| 外用数 | 0.4 | 0.3 | P<0.05 |

図4 平均処方薬剤数

| | 内用 | 外用 | 注射薬 | 計 |
|-------|------|-----|-----|------|
| 宿直開始前 | 55種 | 32種 | — | 87種 |
| 宿直開始後 | 178種 | 85種 | 2種 | 265種 |

図5 薬剤のバリエーション